

## Zone A 学校

### 「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」

#### ——支え合うコミュニティに向けて——

これまで Zone A では、「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」というテーマのもと、協働の在り方について議論を積み重ね、その重要性を様々な角度から確認してきました。大きく変動する 21 世紀の社会を生きる子どもたちを支えるためには、教師一人の力では限界があります。だからこそ教師同士の協働性をいかに作り出せるか、それがこれからの学校に必要な問いではないかと私たちは考えたからです。

こうした問題意識は、平成 27 年に中央教育審議会の答申で提起された「チームとしての学校」という方向性に端的に表れているように、今や学校に関わる人々の間で周知のものとなっているように思います。この答申では、「チームとしての学校」を実現するために、専門性に基づく連携、学校のマネジメント機能の強化、教職員が力を発揮できるための環境整備の 3 つの視点が重要だとしています。確かにこうした視点の重要性は明らかです。しかし、「チームとしての学校」を実現するために最も欠かすことができないのは、教職員一人一人が同僚をはじめとする他者といかに支え合うか、その具体的な在り方そのものにあるのではないのでしょうか。連携がいかにスムーズに進んでも、マネジメントがいかに精緻になされても、環境がいかに整えられても、そこにチームは実現しません。日々の何気ない日常の中で、学校に関わるスタッフがともに語り合い、励まし合い、問題を考え、解決を見出していく、そうしたお互いを「支え合う」活動が、教師のコミュニティをチームたらしめているはずです。

そこで今回の Zone A では「支え合うコミュニティに向けて」というサブテーマを設けました。幼児教育からは世代を超えて学び合い育ち合う保育士さんたちの実践を、小学校からは自主的な実践の学び合いの意義を、特別支援教育からは実践知の継承の取組を、と言うように異校種、異年齢、様々な立場の先生方からの話題提供を受けて、参会者が支え合うコミュニティについて、捉え直すことができたらと願っています。さらに立場を超えた参会者同士が、教師や保育士のコミュニティを支え合う実践について語り合い、その可能性を見いだしていくことができればと思っています。

Orientation 13:00-13:10

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム 14:20-15:50

〈シンポジスト〉高浜町保育所研究グループ ぴっか

坂井市立春江小学校 教諭 山田俊行 氏

福井県立ろう学校 校長 小八木隆 氏

〈コーディネーター〉福井大学教育学研究科 荒木良子

Session III フォーラム 16:00-17:40

## Zone B 教師

### 「21世紀の教師教育をイノベーションする」

#### B0 福井型教育の日本から世界への展開（仮）

日本の公教育システムの中でも、特に優秀な成績を収めている福井の教育システムを世界発信することにより、教育を通じた諸外国との強固な信頼・協力関係の構築、日本の教育機関の国際化の促進、日本の教育産業等の海外進出促進を目指します。

- ・日時 平成 29 年 2 月 18 日土曜日 12 時 00 分開始
- ・会場 福井大学アカデミーホール
- ・プログラム概要
  - 12 時 00 分 ポスターセッション「アフリカ授業研究による教育の質的向上」  
Ethiopia, Nigeria, Malawi, Rwanda, Uganda 等
  - 13 時 30 分 開会挨拶 「日本型教育の海外展開推進事業」について  
鈴木 寛 (福井大学教職大学院客員教授)
  - 13 時 45 分 「福井型教育の日本から世界への展開」キックオフフォーラム  
前川 喜平様 (文部科学省事務次官)  
小林 栄三様 (伊藤忠商事株式会社社長)  
鈴木 規子様 (JICA 独立行政法人国際協力機構理事)  
淵本 幸嗣様 (福井県教育庁企画幹)  
柳沢 昌一 (福井大学教職大学院専攻長)
  - 15 時 30 分 休憩
  - 15 時 45 分 クロスセッション (アフリカ関係国の参加者を交えた討議)
  - 17 時 30 分 閉会挨拶
  - 18 時 30 分 懇親会
  - 20 時 30 分 終了

#### B1 管理職養成の今日的な意義を考える ―教職大学院の可能性と課題―

Zone B では、生涯にわたる教師の職能成長を支える教師教育という視点から、“21世紀の教師教育をイノベーションする”をテーマとしています。

次期学習指導要領においては、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、カリキュラム・マネジメントの確立やアクティブ・ラーニングの視点からの学びの実現などが改訂の基本方針とされています。それに先立ち、中央教育審議会は、平成 27 年 12 月に、教員の資質・能力の向上を目指す制度改革、「チームとしての学校」の実現、地域と学校の連携・協働に向けた改革を柱とする三つの答申を示しました。

このような動向の背景には、社会の急速な変化に伴い、学校教育において求められる人材像

が変化していることや、学校現場が抱える課題が複雑化・多様化していることがあげられます。

こうした中、これからの教員は、新たな学びを展開できる指導力を修得するとともに、複雑かつ多様な課題に、幅広い視野に立って柔軟に対応できる指導力、同僚と協働して、組織として困難な課題に対応できるマネジメント力、地域との連携等を円滑に行うためのコミュニケーション力などを身に付ける必要があります。

中教審の答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(H27.12.)では、教職大学院において、管理職候補者となる教員に対する学校マネジメントに係る学修の充実を図り、管理職コースを設置することや、教育委員会との連携による管理職研修を開発・実施することの必要性が謳われています。

このことを踏まえ、福井大学教職大学院では「学校改革マネジメントコース」を平成28年4月から新たにスタートさせました。兵庫教育大学でも「学校経営コース」に加え「教育政策リーダーコース」を、大阪教育大学は「学校改革マネジメントコース」(H27.4～)をそれぞれスタートさせ、岐阜大学では平成29年度から「学校管理職養成コース」が設置される予定です。

そこで、今回の Zone B1 では、関係のシンポジスト5名で、管理職養成の今日的な意義や教職大学院の役割などについて、マネジメントリーダーの資質・能力、カリキュラム・マネジメントや「チーム学校」を実現できるような教職大学院のカリキュラムの在り方なども交えながら論議していただくとともに、引き続いて行われるフォーラムでは、少人数のグループで参会者の皆様方と共に論議していきたいと思っております。

Orientation 13:00-13:10

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

〈シンポジスト〉兵庫教育大学教職大学院教授 日渡 円 氏

大阪教育大学連合教職大学院教授 大脇 康弘 氏

岐阜大学教職大学院教授 篠原 清昭 氏

文部科学省初等中等教育局

教職員課課長補佐 大江 耕太郎 氏

福井大学教職大学院教授 三田村 彰

〈コーディネーター〉福井大学教職大学院教授 松木 健一

Session III 16:00-17:40 フォーラム

Session I, II を受け、小グループに分かれて参会者の皆様方と議論を進めます。

## B2 (a) これからの学部段階の教員養成を考える 実践を聴き、夢を語る

教員養成をめぐる制度の見直しへの提起が重ねられ、とりわけ教職免許法の改正にともなうカリキュラムの変更が求められてきています。

しかし、長い蓄積の中で培われてきた組織の中で、新しい課題への取り組みを進めていくことには大きな困難がともないます。それぞれの実践と経験を活かした、当事者としての知恵が問われてきていると思います。

昨年6月のラウンド・テーブルで、学部の教員養成に携わる当事者が、互いの取り組みを聴き合い、語り合う新しいセッションを初めて開催されました。二回目になる今回は、新たに学生中心のセッションが生まれていますが、並行して前回同様教員が自分たち自身の取り組みを語るセッションを進めたいと思います。大学における教員養成をどのように支え、また今後に向けて発展させていくのか。さまざまな背景と専門を持ち、学部での教員養成に携わっている当事者同士、現実の中での互いの取り組みを聴き合い、語り合う場を創っていきたいと思います。

前回同様今回も、少人数で多様なメンバーが大学を超えて教員養成の取り組みを聴き合うことを中心に据えたいと思います。それぞれの取り組み、そこでの工夫、あるいは課題や悩みも含めて共有し学び合いながら、これからの学部における教員養成への夢を、当事者としてふくらませていくことができると思います。

互いの現実とそこでの取り組みを聴き合うことを通して、また夢を語ることを通して、さまざまなキーワードがセッションの中で浮かび上がってくる。それをさらに次回のセッションにつないでいきたいと思います。

## B2 (b) 学部学生のクロスセッション

### 授業/活動 ー語ろう・聴こう・出会い直そうー

「教職への夢が語れる教員養成」へと展開していくためには、どんな課題と向き合い、どのように解決していけばよいのでしょうか。前回立ち上がった【Zone B2】では、全国から集ってきた大学教員たちが、それぞれの大学で実践している授業や活動をもとにセッションを行い、この「問い」と向き合いました。互いの取り組みにおける課題を語る中で、そこから浮かび上がってくる Key word によって、これからの教員養成に対する夢が語り合えると期待していたのです。

確かに、Key word はたくさん表出してきました。しかし、「夢が語り合える」ほどのものであったのかという疑問が残りました。それは、Key word のほとんどが、教員の立場で見出してきた課題から立ち上がってきたものだったからなのかもしれません。そして、改革を押し進めるためには、教員養成における学びの主体者である学生たちの課題を踏まえたものでなく、「夢が語り合える」ような Key word にはならないのではないか、といった新たな「問い」が生まれてきました。

【Zone B2b】は、このような「問い」を受け、新たに立ち上がった学生たちのクロスセッションの場です。まずは、「自分たちは、あるいは他大学で学ぶ学生たちは、どのような授業や活動を通して、何を学んでいるのだろう」と言ったところから、語り合い、聴き合ってほしいと思います。互いの取り組みを聞き合う中で、授業や活動の中に潜在していた意味ある課題と出会い直すことができるかもしれません。学生と教員と一緒に夢を語ることで Key word も、そこからなら見つかるのではないのでしょうか。学生の皆さんの参加をお待ちしています。

## Zone C コミュニティ

### 何がコミュニティの持続的な発展を支えているのか

急進的な改革はないが、長年にわたって絶えず発展を続けている取り組みがある。一方で、当初は理想的に見えても、短期間で頓挫してしまう取り組みもある。この違いはどこから生まれてくるのだろうか？

これまで Zone C では、コミュニティの持続可能性に関わる課題を探究し続けてきた。そして、学校以外の場でも人の学びを支える多様なメンバーと協働探究を続けてきた。メンバーの多くは、地域社会の学びの場をコーディネートする役割を担っているが、それぞれの取り組みを持続可能なものに行っているのは、力量あるコーディネーターなのだろうか？

学校内外問わず、コーディネーター役を担っているスタッフが永久に居続けることはない。定期的にスタッフが入れ替わるのが常である。そうすると、特定の力量ある個人が取り組みを支え続けるという形には必ず限界がある。スタッフが入れ替わっても発展が持続する仕掛けが組織に備わっていなければならない。それは何なのか？

Zone C では、community という言葉に地域社会や共同体といった訳はあてず、コミュニティという語が使われてきた。それはおそらく、特定の場所や集団ではなく、そこにいる人々によって営まれているコミュニケーションの構造に目を向けているからだろう。今回はコーディネーター個人の力量ではなく、それぞれの取り組みの発展を持続可能なものに行っている仕掛けやコミュニケーション構造に目を向け、これからスタッフが入れ替わっても発展を持続させるためにどのような取り組みが求められるか、多様なメンバーで考えていきたい。

Orientation 13:00-13:10

Session I 13:10-14:10 ポスターセッション

福井市中央公民館、福井市足羽公民館、福井市清水東公民館、福井市越廼公民館、福井市殿下公民館、福井市木田公民館、福井市円山公民館、福井市一乗公民館、越前市坂口公民館、越前市花筐公民館、越前市南中山公民館、越前市服間公民館、ふくい市民国際交流協会、福井大学探求ネットワーク 等

Session II 14:20-15:50 シンポジウム

〈シンポジスト〉 福井の公民館主事

福井大学探求ネットワーク

〈コーディネーター〉 福井大学教職大学院 富永 良史、宮下 哲

Session III 16:00-17:40 フォーラム

Session I, II を受け、5~6 名の小グループとなり実践の交流を行います

参加者：福井市の公民館主事、越前市の公民館主事、福井市生涯学習室、福井大学探求ネットワーク、地域の課題に取り組んでいる NPO、学校教育関係者、企業関係者、福祉関係者、日本語教育関係者、早稲田大学、明治大学、東京学芸大学、玉川大

## Zone D 授業研究

### 「子どもと教師の学びを支えるために授業研究をいかに組織するのか」

教師が専門職として生涯にわたって学び続け、成長し続け、新しい時代の授業づくりへの意欲を高め維持していくために、そして、未来を築いていく子どもたちの学びと成長を支えるために、日本独自の学校文化・教師文化である授業研究に大きな期待が寄せられています。しかし、ただ授業研究を実施すれば教師の指導力や授業づくりへの意欲が向上するわけでもなく、また、子どもたちの学力や生活力が向上するわけでもありません。何のために授業研究を実施するのか、いかなる授業研究を実施するのか、どのように授業研究を実施するのか、私たちはこれらの問いを常にもちながら、確かな戦略をもって授業研究を実施することが必要になります。

Zone Dでは引き続き、「専門職の資本」\*という考え方にに基づき授業研究についての検討を進めながら、今回は次期学習指導要領改訂に向けて「子どもと教師の学びを支えるために授業研究をいかに組織するのか」というテーマで各Sessionを進めていきます。未来を築いていく子どもたちの学びと成長を支えている実践者や研究者の方々、「専門職の資本」を磨きはじめた若い実践者の方々にご参会いただければと思います。

\*「専門職の資本」は人的資本、社会関係資本、意思決定資本の3つからなり、これらは、教師が専門職として生涯にわたって学び続け、成長し続けていくために投資できる（磨いていく）ものです。Zone Dでは、授業研究の力を「専門職の資本」へ投資するという観点から、参会者の皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。

Session 0 オリエンテーション 13:00-13:10

Session I ポスターセッション 13:10-14:10

Session II シンポジウム 14:20-15:50

「次期学習指導要領改訂に向けて授業研究をいかに組織するのか」

シンポジスト 鼎談

福井大学教育学部附属中学校・教諭 森田 史生 氏  
埼玉県立新座高等学校・教諭 金子 奨 氏  
玉川大学教育学部・教授 石井 恭子 氏

Session III フォーラム 16:00-17:40

「子どもと教師の学びを支える授業研究の実践」

A. 学校における授業研究の多様性から学び合う

A-1 信州大学附属長野小学校の実践 福井大学教育学部附属小学校の実践

A-2 福岡教育大学附属福岡中学校の実践 越前市武生第一中学校の実践

B. 高校における授業研究の発展

大東学園高等学校（依頼中） 福井県立敦賀工業高校（検討中）

C. 授業研究の国際展開 Globalization of Lesson Study